



特別
~5
6043
6



行
A5
6043
6上



元日 春
賞月 野老 歸雁 花 梨花 躑躅

子日
梅 春雨 柳 雲雀 楊 蛙 藤

若菜 春冰 若草 桂 雉子 楊柳 若菜 三月盡



下
十
十

震 春雲 蕨 佛別 蝶 海棠 三月言 雜春



横
山
重

更衣 蓑
祭 桑
百合草
蛩
笈月
端午
未摘花
菱菊
富士詣
嘉定

牡丹
郭云
芥子
蚊
麻子
競馬
瓜
氷室
夕立
納涼

新樹
杜若
橘
若竹
青梅
惟子
夕顏
扇
雲峯
泉

新茶
若楓
樗
短夜
青雨
早苗
梅子
蟬
祇園會
鴉飼

海松布
御萩

蓮
雜笈

薰風

豐酒

秋
初秋
七夕
稻妻
露
萩
槿
月

一葉
玉祭
麻
霧
蘭
危野
名月

殘暑
躑
虫
芭蕉
薄
色鳥
九月十三夜

秋扇
相撲
鶉
萩
女郎花
葺
雁

礎
新酒

茵
雜秋

紅葉

重陽

冬

初冬

時雨

茶口切

木葉

霜

雪

霰

氷

水鳥

鷹

炭

埋火

綿

紙子

寒梅

年忘

年内立春

歳暮

雜冬

小町躰第五らり

春

元日

子日なりきり年

字さびしう祢のこれ餅乃かみ外
神代ももき川や日本紀門の松
今下毛や去らば筆れま六十
夕よひ又延彦式なりり國乃去
あよこそハ神代の本もかこ餅
多川まわ日よこハ神代の本もかこ餅
二彦よこハや枝小松さく花の去

白玄

嶺利

泰重

亮

常辰

紫言

年一む、子影一、志、記、麻、う、か
 と、朝、や、世、れ、際、時、の、ま、つ、う、祚、の、ま
 大、つ、く、い、年、一、う、ら、う、あ、る、新、茶、外
 と、一、酒、や、今、朝、と、日、本、の、神、司
 世、り、う、ら、う、や、天、地、和、合、れ、花、乃、ま
 餅、香、や、花、を、ま、実、も、あ、る、春、の、ま
 書、そ、め、や、一、字、千、金、々、よ、の、ま
 も、ら、う、花、や、体、を、紙、継、種、れ、家、探
 流、り、う、や、世、終、母、一、の、二、度、乃、ま
 あ、水、や、天、乃、あ、う、う、る、ま、れ、ぬ
 人、う、ら、う、花、実、の、時、そ、う、よ、の、ま
 友貞
 定親
 好与
 政之
 方寿
 信世
 親平
 未安
 有哉
 宗雅
 為親

八三三

門、ま、や、噫、く、如、律、と、朝、れ、勢
 年、酒、外、そ、う、う、や、花、一、あ、依、保、娘、の
 困、く、と、ま、う、よ、や、名、不、れ、花、の、ま
 よ、さ、た、め、一、引、て、い、う、あ、や、ら、う、あ
 展、藤、酒、の、味、ハ、甘、露、う、と、門、の、春
 門、く、や、年、酒、律、れ、大、御、一、ら
 あ、水、や、あ、度、れ、ま、紙、か、け、む、す、い
 山、と、あ、る、茶、乃、う、う、あ、や、か、さ、り、葉
 ふ、わ、て、み、ね、る、年、ま、れ、あ、ま、さ、う、れ
 二、束、小、も、と、寸、そ、う、人、ま、り、門、乃、松
 餅、香、一、ま、う、も、と、ま、う、う、柳、一、か
 智詮
 方女
 親信
 正朝
 久次
 三辰
 元直
 信元
 宗立
 重方
 宗信

書をよみたる久しとせしむるいふいふ
 あり居くわりののちありて事今年
 本年のまじりといふらん今よるま
 祚の代に内侍不うかみさうら
 あり日や和ふおぬきふれま
 未だくして祚ふあつて居る酒
 君の代のあり教れりやあつる春
 祚もかもしるうさゆやういそあ
 大つてこれ茶よりをもつてまのま
 うい酒やあつるま毎のころり祚
 聖代といふ目のおつ祚乃ま
 重澄 重良 成政 秋好 長好 昌久 時久 宗勘 道邊 廣寧 俊佐

遠葉やあつるやい酒の祚乃山
 書をよみたる久しとせしむるいふいふ
 二十二れまや法華の廻文奇
 餅花の考盤末うら子世れま
 海やあつるま妙とたふ小むらま
 事初や美草終とと川の春
 うい酒の清殿の門やあつる方
 物りくこれまの徳ゆくあつる家
 一とせのとんとれりつと祚のま
 きあつるを奉らうらうらあまのま
 美水やあつるはつるん八千荷
 康吉 随師 正利 正重 存外 惟弘 重利 一正 親真 重昌

言く代や爰れ西月此の餅
 わくくくくくくくくくくくく
 送餅の一滴くくくくくく
 たくくくはあみくくくくく
 賤物く一字重持去乃春
 花くくくはくくくくくく
 いくくくくくくくくくく
 あくくくくくくくくくく
 律の代れくくくくくく
 書くくくくくくくくく
 名来く四方くくくくくく

六陸
 長吉
 宗祐
 成次
 宗濱
 同
 道玄
 常辰
 志
 同

元日や餅くくくくくく
 年酒や餅くくくくくく
 鶏日ハ四乃何くくくく
 門松や千葉くくくくく
 乾坤くくくくくくく
 元日ハ又字や律代くく
 赤例くくくくくくく
 古年くくくくくくく
 菊代ハ律くくくくく
 去くくくくくくく

三直
 泰重
 友貞
 同
 同
 同
 定親
 空立
 同
 同
 昌房
 同

書物や校りまきの言たれま
 年酒の神や心とちかまり
 賀の奇れうまねと紫うま乃春
 さうらうに仙とあわらつる屠蘇の酒
 ままや和歌部小賣れ市乃棚
 去年の門の難波のみさうまのま
 らうまや公可い乃うりそん
 とおとをさる国常之の代れま
 年酒の女神男神うまの春
 え日や日かりりあうま字うり
 初麿られ中まはは兄弟まのま
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

門書や千載集のわらみり
 去りてらく中うりせりまのま
 餅花や友右衛門の神れ幣
 夕のまよかろふはのまれま
 むら花をくま小松よ初子日
 初まよりあわひうらよん子日
 去りてらくまおれはま宿のま
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

子日

引つまらうまわ小松小娘の家
 意

此の名れきんふひうり小松丸 同

若菜

^{廻文} けしむつび花うりかひひひら

霞

^系 道を記すわくしこの一里鐘 友貞

いしへの家名流白う八重うすふ 富

去れ日くかきれあわわの森 信盛

第木うき同木をて深き霞 定行

雲乃袖れたんくくあう横うすえ 立圃

葛 百千鳥

若うくさきあわわから一藝 麿哉

うくいとわがれ山家乃こころみうち 正冬

昔も新なりり世は目白う那 玖世

うくむすわひあうえいつく紫丸結 梅遊

葛も来く梅うえわうくい物 如木

うくいほやまはるや一の流乃夜 正辰

うくいそわあう干流流の形 友貞

一勢の山うりうくあう百千鳥 喚立

若れけさしめ新や右今の序 親十

梅うりうくうくうくいすうくあう葛丸 長房

梅の香はわが方より花の香の佳き
 香は月夜梅の交りそよふる園
 じつらやこれも枝小斗れ星の影
 橋はうき袖の香うじわのくしれ
 花梅やあやまこれきんよりの星
 うわりの来とく同小郎をたする梅を
 梅檀のら紫うけわじ梅のくしを
 じわの香は奇の園よりわさうり題
 梅の香やなとりの来とくう座くし
 花梅やじわしれきよう魚り花
 じつら見それいしうらわ非小松
 昌房 同 立園 同 同 同 同 同 同 同

^櫻 神は梅の香よりそよ松の影
 じわのくしれとれそよとくうくしん
 同 同

春水

とらわりのとらわ水れ庭の影
 流りくしわらわりのとくけく水鏡
 うきくしわらわ母とくわ胡少
 立園 同 同

春雪

うらわりのとくえの香しそよまはる
 香はうらわらとくうらわらうこれ
 立園 同

夏草の音 夏草の音 夏草の音 夏草の音
夏草の音 夏草の音 夏草の音 夏草の音
夏草の音 夏草の音 夏草の音 夏草の音

菴

友貞

定法

菴

五月

五月の雨の音 五月の雨の音 五月の雨の音
五月の雨の音 五月の雨の音 五月の雨の音
五月の雨の音 五月の雨の音 五月の雨の音

信元

菴

春雨

春雨の音 春雨の音 春雨の音 春雨の音
春雨の音 春雨の音 春雨の音 春雨の音
春雨の音 春雨の音 春雨の音 春雨の音

菴

四十一

若草

若草の音 若草の音 若草の音 若草の音
若草の音 若草の音 若草の音 若草の音
若草の音 若草の音 若草の音 若草の音

政信

菴

蕨

蕨の音 蕨の音 蕨の音 蕨の音
蕨の音 蕨の音 蕨の音 蕨の音
蕨の音 蕨の音 蕨の音 蕨の音

任口

信世

野老

野老の音 野老の音 野老の音 野老の音
野老の音 野老の音 野老の音 野老の音
野老の音 野老の音 野老の音 野老の音

松平

一

風ありて花ありて
あふうとこま女房の柳の女

未得
紫言

大衆とけつるを柳に去かり

同

多柳や宮小室にて京とら

勝定

花も枝より色々の風乃柳家

雲

風れもや屋のふとりて柳

信

花よりる風や柳に片貝負

友貞

床小りけくさう花るる柳れ

立園

多柳や花をぬ風乃とて柳

同

花入乃あまらとて柳れ

同

椿

あつむる露とあつむる花

和年

蓮葉れ花をけしとて玉れと

立園

佛別

命ありて何りて蓮のうま佛

碧也

からくしの絲と人の雲と秋と霧

有直

うさわりとてわらうとて蓮れ涅槃うか

友下

白雁

あつむる花とて蓮のうま佛

昌房

くらりくらり磁石の針くかゝるる唐

立圃

雲雀

あつんこころしれ空かりひらるる止地

誠之

喜しいまうくさるるや中雀は言ひり

吉是

くくわいうみうりの空うらや中雀也

之信

雉子

さうのれまうさう言也とさうり特

寺武

蝶

せんさうのめさうんさうらうく蝶乃舞

可久

舞の及りう蝶あけとれ蝶の那

重頼

花

名香のかれ木は花れうか里う那

常辰

ととくいの花れやとあわやうら川

同

花さうりう栄曜いつま目とさうら

同

美提りし極木やうさう花さうり

同

おのいやららわらうのを同うの

胤及

物乃師やんれあはは花のそん

和好

花後の小神や花れくくさ葉

重頼

奇人あうらう花の多所う那

摩言

行ふ事ねやあつたの花此は神木
 ますまきてよ心此花乃藝母より
 是とれくは舞う雲りのうとしは
 花の香やありと梅のすみ風吹身
 風流れ柳やうらなれ遊乃糸
 ぬくく咲く新母血ぬ子や花は香
 思文
 らくまてそ花はくくみは袖まう
 日 花は木くは糸流れして垣乃縄
 日 同や〜花はその名いあ〜ぬ人
 日 弁乃名いあ〜し〜是と〜花は
 日 花の木うのけ〜花は竹は垣乃縄

同 知清 雪学 重次 忠親 未得 真久 定房

花は香流れく世ぬら風やを自ぬ
 舞の枝はえやけおるれ勢りうか
 名お乃う〜花は〜花は〜
 花山の庭は〜花乃〜花は〜
 り〜花乃〜花は〜花は〜
 月流れ〜花は〜花の山流り
 花は〜花は〜花は〜
 花のえんゆ〜花は〜花は〜
 花の〜花は〜花は〜
 花の〜花は〜花は〜

親長 立女 同 同 同 資家 方春 吉寿 妻 春良 保友

人乃教ふる誠みすもの也花れ多
 花くののくくもや國去れ也
 と新ハ雲夕なり可く毒の由
 毎に風そひくくや花れ若くも
 粗言を一乃ん物ハ花子う那
 老人を杖やますれく毒の陰
 りりくく於威勢やまもくも花さうり
 月花れむりり阿くもく持奇うか
 咲花れ方角さうりかけひき
 一年乃花も時さうり去去う那
 善ぬももくさわく誠せよ花島

正時 友貞 同 宗雅 同 重孝 助久 親十 同 同

一所の榮花やま去れ花も酒
 多年とりり人をもたのりく花さうり
 作り末や理誠非水ゆるむの枝
 ぬすむくま花も心乃花もな
 世ハ花りく道りくさなくもくりり
 花も去り月れかくもくもあさうり
 蝶もハ比翼連理よ花乃えさ
 花とくくも花もくもくもく書
 天ハ花もくもハ何りりく酔の教
 切やくも花も日のおうむりく山
 老ハ法も毒のわくもくも佛も菩薩

安直 志 信盛 定親 同 奉重 同 為親 昌房 方孝 資方

つたむらさきの香も香る花はいろ
と記つたれ人のよきはるむさうり
よ記たれ人の花はよふ未の那
不むらさき花もゆるうらさ乃露
子中花は母勢あり大念佛
人あつたぬまの山の花や道心志
古き奇や花は名所の業因志
書きたるあともあやう花は海
床しそい花はあふ乃一さうり
清みあつたあつたや舞の海福
うつ—繪紙又似せむ世花の香

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

仰りまの嵐や波乃花とさけ
枝切りともさりあともさけの香
えめられし十方くれよあなる
居らうともあつたゆいあり花は香
花は紙約人や月あつく坂じうい
世のともやけま月花第二三
过うらや四方にうらまね花は香
花くも母皆ゆらういよよ老花友
ん—あつた酒とりそらむみか
節あわらうあつたかなる花れり
酒の香の中のも花せり香乃あ

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

源よりハ芝居やうりよむ此ぬ

同

櫛

雞波ぬも名にかうりや伊勢櫛
 杉波やきゆいひきうりも思さうり
 一旗う三櫛乃神杖伊勢はうり
 家法とややうりう里(思さうり)
 楊をねや唐去いあうりと應櫛
 家さうり今(そふん)去れ花
 花て(そふん)去櫛の系さうり
 慈音れ花波多れや去道心
 庸信 孝友 宗雅 親十 保友 同 全垂 重俊

花さうり石老うり(きう)そむさうり
 慈音れ花波かすとも衣うり
 りり舞の流といはすか思さうり
 とりらあや花れあ(ま)の逢櫛
 兄とれてわ(う)本もあ(ぬ)山櫛
 花櫛と(う)ま(み)きり娘さうり
 花も香も(う)た(わ)けり系はうり
 昔い(そ)き(あ)か(う)ら(わ)逢さうり
 麻呂と(う)櫛師(と)う(わ)櫛うり
 心(と)こ(う)小(思)わ(な)れ(く)物(さ)うり
 八(重)と(う)今(の)る(る)自(や)家(は)系
 正威 定法 未及 齋山 常辰 立圃 同 同 同 同

鬼さうさあかこらわ小新夜念
花れ文のうけらわ小町伊勢橋
鬼門とわあさそとさゆか家ささ
老の身れし子とわわささ

同 同 同 同

楊柳

花ささは八重の垣後よささ朝
枝やささあまそなれささ朝
かさ柳よささささ柳よ

一幽 静壽

海棠

かさささささささささ風りか

立圃

梨花

海棠さささささささささ花

立圃

蛙

かささ子いささささささ花
れいさささささささささの奇

一柳 重因

若菊

石ささささささささささ花

政之

三月三日

付桃蓮餅曲水

ささささささささささ桃枝酒

吉定

麻のりわ砂糖水けりて蓬餅
うすくらに野意のみくらりる菓餅
桃のふいふうつらみきりれ酒の酔
あめりかりて三年酒は桃乃花
えね崎のうしれ菓うりのこ餅

餅躰

欠立
貞繼
梅也
昌房
信元
立圃

藤

風流いとまきり波うさうり花
釣糸や花れ流うをけらるる花

俊次
宗雅

とものつゝ松屋おつけや花うら
今こそハ氏れそまよ花の花
花けりれわらうやうえ波りら

二月畫

夕よのこれまれ花うらや花わける

嶺利
昌房
立圃
昌意

雜春

任者れまの代物うらみまら
字そし乃新や啼り鳥の絵

重頼
立圃

小所醴笋五ら〜

麦

更衣

善友れさういけぬさあわせうれ

信

牡丹

付芍薬

芍薬の長〜り花〜り酔れ酒

誠之

芍薬の長〜り花〜り酔れ酒

園

新樹

近道とて花はき〜り花〜ら若

ら〜花〜れ花〜めさ〜りいのみさ〜ら

園

新茶

多と香もろ〜り人の氣かき茶うれ

幸和

右茶新茶いげとむ〜れとじ〜り

貞心

う〜り香も同〜り〜り此新茶うれ

意伴

う〜り〜り此新茶うれ

宗静

茶

同端と教〜ん筑摩さ〜り〜り

重頼

郭云

知〜り〜り〜り〜り〜り〜り

似也形れわわはりもつふ得くも
 かくみさくわつうつういふわつう
 それとさく定年りうか時鳥
 佛身う我名とるつうほつうと
 奇みうゆし能くさくもわ題名紫
 空つうねきわ無れ山得くも
 月よ形ありわさちわつう都
 知くまはなつうねとりつうわ文字形
 ほつうお原言れ形形わ名對面
 そましくにいんえりれ者う能くも
 何とまは漢去わかつう文字の形

光貞妻

一

秦重

友貞

常辰

未知

未立

立園

同

同

杜若

ひくまのうくうのうくわなよ花
 さ波乃かさうくさくわゆり花
 若楓
 下戸れえく一親わう紫乃お系うか

長女

立圃

常辰

百合草

風わかき豊玉作うゆり花露
 とそ咲わ思れし作百合乃くれ
 牛一歌る歌の名くわ思百合草ゆり

幸増

友貞

親信

とく・露れ玉より雫うゆり乃花
花な〜ねは〜の船わ〜こ〜ゆり
又車うねわさ〜の庭れゆり乃花
五月ぬや車油とま〜ゆりれ必
同 好子 定親

久い魚小露のかのころま〜の花
立圃

橘

たらし〜わじ〜れ人乃袖香極
橘乃香みせ〜られ〜福々ぬれ
きら〜れの〜わいや梅のぬれ情
立圃

多らし〜わらう〜てい〜わ〜り
かり〜の橘とやま茶のい〜
立圃

標

聖王れ作ら〜の雲え茶
定行

雲

か〜とれ人の花大れ野ちう那
う〜ま〜下う〜る〜天は星
け〜らちや本れ下や〜の昼瓶
佛身うむ〜り〜ら〜と〜雲
か〜大れ一寸〜らやぬ月や〜
信元 信定 立圃 立圃 立圃 立圃

致

なれり〜花〜火に〜蚊をうか
如貞
樵の木は〜ぬ〜の蚊怯れ
清下
か〜肉ハ〜のうらや〜
産
其れ代〜り〜の色
同

若竹

茂き并〜冬と〜を〜
重頼
良菜〜若竹〜
親宣
か〜も〜
親宣

竹の〜十つ〜
西翁
盗人〜竹の子〜
未知
り〜の〜
方女
いけ〜
立園
き〜
同
竹れ子の〜
同
る竹〜
同

短歌

なれ夜〜
良重
竹の〜
寒松

こころをわすれとせぬ酒の二言醉
明やと記夜は月さうらう日さうらう
まればあや月のうささこのわら板
夏乃東のなまも早くせの月れら

夏月

扇とほそくさくわあれ山の月
丁風録もらう一月のひかり
乾坤やまよふまね月れ扇籠
月乾の扇なりくく川流るれ

麻子

去日野やわらうひくくえ乃想うのこ

善梅

あまのこれくわや難波の梅れと縁

五月雨 付梅ぬ

こころれくわら八巻れら自とさ
海とけよも枝少枝のじわたぬ
難波あまかつけ袖笠梅乃ぬ
六月ぬれ晴方や沖乃小人鳴
春りぬや浪流よりおけり遊は川

立園

同

同

同

重頼

立園

立園

同

季吟

立園

定元

定清

立静

立園

同

端午

杯のさしたぬきひきさしたるあやめ
松うすてひくはねのひれ高蒲うれ
あしくれちるぬいちり刀う那
雲ととろ高蒲うすひや花あや免
藤の紫い子せうかきまり粽うれ

定親

尾外 友下

産

同

同

競馬

駒うすくひさふゆんわいそく
とられしよふのりくくく馬
ろくほやななななななな

是等

後真

昌房

昔思れ二ころから競るう那
くわされくわいよあう競馬外

方孝

信世

惟子

かこのわきりうきくう衣
あうくそ風い屋うそ芭蕉布
くくくく汗流とわりれゆう海

泰重

親信

守長

早苗

あ苗いしうそとゆり田介ふ

英方

末摘花

はむ人の肌みそまわわお乾花

立圃

氷室

とうとういさゆや氷室れ山より
餅ハ舌をけりしとや氷室を
まの秋のいつ言終ふは月餅
齒くはちやうふれはる餅

急意 同 昌房 主圃

扇

形つまは袖くそふり人おあつさ
くまの井水白ふちの扇をか
松紙繪所一風さうらわく扇か
風とおひさしそふむく扇れ

貞伸 富女 空存 一正

布目代の麻れ風や汗のらひ
わげ水よりうさまりこる扇か
大さの月ととちつら園か
扇紙よりそ人わつこのけらる扇か
喜丹吉のうさつらや扇良園
山くくとたじ雲繪のわつら
汗の紙扇より一れ暑さうか
りの人や暑風紙の心唐園
章れはのちつらけつらわ白拍子
風俗や和園よりかりる唐らら日
料さくてくは扇のうさうれ

乾宅 是等 重貞 八歳児 松滴 一守 信世 好子 政之 親信 永重

納涼

わさあへさ小袖我ちよわつさう那
志のいまん冬い又い又六月
涼風よひまん冬いせむすこ
す風やみらもいせむす風
打そくく庭木あまやみすれあ
涼風我胸あわらりよ泣水う那
暑さこ日にかこらひいもうな風袋
身にさくぬ汗や涼しきなれ河
なれ目と涼しとらわつるゆや

嶺利 林可 重頼 令市 通親 昌房 見牛 立女 宗雅

あへまぬまのさくもららう袖の汗
わつさ目よぬれくさるるや汗のさひ
汗あま風袋ひくせらる扇う那
えんかこそむらうく汗れさう水
堂い満珠うらう平珠うむ乃汗
汗あま日照あゆさう泉くれ
す風や松うつさいてけりあ枝
涼風やまらあくわつさ目れさうま
さう川よ目もすつりせりうすこ

之信 好子 常辰 有哉 了空 親信 立圃 同 同

泉

涼風の夕れかきぬわがゆふのそら
同

雜書

春の夕やわかしこ六位れなる袍
常辰

井の水わあわあたるははははは
同

鴨のふたふた入る何なははは
宗雅

空山や麻草ふるる雪をる雪
清平

園子よわかろく二層むま葛
有哉

春の夕やわかしこ波の言まら
同

^四がら月とららるるわららるる沖津ら
未次

浪の波織入羞のうらま紫くれ
宗富

わらわら先畧一はや角さけ
う意

友山や浪跡の四列れあはら
和年

花やははははははははははは
重昌

富士波離やいつとも宮たるれ川
玄圃

友山やまき海らららららら
同

畧のこ目や酒ふりたららら
同

腹中よとららやま月れははは
同

ららら川のたまりたらら川瀬
同

小町躰第五らうり

秋

物秋 付文月

月おろしむ暑一口うぬれ風
秋風やと物吹あけらうの冬
吹うせら口うくてもまけさ秋
一滴の露うりあうや秋津園
娘うりや扇の風れ吹せ
秋もあそと耳ふ風於の響れ
と物うりや其毛もさう娘の風
はとららるももそ今物れ秋乃風

満直 同 但秀 友貞 當震 政成 二明 治佳

ふれうらぬせうやなや娘の風
又月やめそく物く蓮れあ
とくぬやこれ秋津洲の葉じすい

昌房 季吟 為親

一葉

梅檀のう葉とらうら一葉これ
と物うきこわくく船の一葉うか
ふれうらぬせとめくはる葉

有哉 昌房 元次

残暑

酒うらぬのうらあつさわ二百解

春皇

秋涼 しののけささり初寒風
 皆くく 茶碗水 濁り暑さうか
 汗と風 さらさら 程乃秋よりれ
 庭菊 水あつさ 木のうら秋れ多
 夕下し 曇りさ 秋と 茶のりか
 長治 三園 同 同 同

秋扇

秋扇 せわじう 秋乃空
 道之 三園

七夕

天の川のうら 比翼な ちわやま星
 かりのちわやま ちわやま ちわやま
 星あひのち 七世れ くとれ奉
 ちわやまの ちわやまの ちわやまの
 中月 せら ちわやまの ちわやまの
 ひあひのち 星の 離貝の ちわやまの
 ちわやまの ちわやまの ちわやまの
 信世 可哉 知徳 春良 常辰 三園 同

玉祭 付送火 施餼鬼

水せうの 運海の ちわやまの
 定行 童頼

とくりちかきくつら真遠の歌法師 常辰

踊

天竺れかきりの奇ハ重後れ
男とんふ奇し〜海もや伊勢踊 昌矩
思格う〜ら〜あつた〜あけ踊 表
と線〜〜られ約わ〜りか〜らと 常辰
わ〜〜ら〜奇や男女れ中〜と〜り 松女
向ら〜れか〜ら〜びきせも〜らる 資芳
奇いつき小町踊や伊せか〜り 貞徳
歌き〜〜た〜り子多〜〜重月 三園

女房れねとこかまや馬鹿と〜り 同

相撲

とすれ〜い奇も〜〜終んお撲〜ら
月よ〜ら〜〜い〜〜れねや曲お撲 重庸
あつ〜ら〜さ〜い〜ら〜〜〜勝お撲 勝明
お撲場よ〜ら〜ら〜ん河津〜け 廣寧
好道

稻妻

い〜ら〜〜ら〜〜目ふ〜ら〜の段 三園

康

芭蕉

いつくもね言れらるる月夜歌

三信

萩

浪蕪れ終や秋らう修防らうと
物まらうと目ふるや萩の風
秋風乃口らうと早らおきれ終

友
為親
三園

萩

^{廻文} 名はれ終蕪らうと秋蕪乃花
小町の蕪らうと小町の蕪らう果

但秀
正次

ゆらとや蕪大名れや早と奇

三園

蘭

^{廻文} けうしはらんとしけうしはらんうれ

元親

薄

いろはにほへの字かりうる薄う那
風うと物と尾巻やとの神うら
ねとふくそ巻れうと波うら
野羽よは尾花わと巻うと巻うと
巻や玉うと巻の巻れわうと

一函
定清
友貞
三園
同

女郎花

うらみうらみうらみうらみうらみうらみ

三園

檜

あさうちのちをとも瑠璃若むらう
羽うけの目と海一葉は花をえんれ
あさうちのちをとも瑠璃若むらうの鐘
有哉
三圍

花野

香は香の子らとたにさうよ花野を子
秋風小しとさうとさうと花野を子
香は香の子らとたにさうよ花野を子
同
同
五十九

色鳥

涙をとりやまうとさうとさうと
鳥は目いぬよとさうとさうと
老乃飯とさうとさうと
重因

草

松とさうとさうとさうと
昌房

月

雲月を自筆は月とさうと
酒樽とさうとさうとさうと
秋らの心とさうとさうと
貞威
元躬

心より似せりや、あまの池の月
 入月五行まじりて、じつじつと報日山
 とじ事、天の道なり秋の月
 月をすまらう、秋の月ひたりおこり酒
 月かたそをいづきしや、石室紙
 月彩、夜くみりたり、水鏡
 月聖らむらひて、ついでに波し
 闇のこころ、月をみれば、ま
 らんまらう、下はそあら月
 わらう、は空とそらう、や霜の月
 天のわらう、地をう、月の影

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

名月

名月、入日、夜まじりて、露くれ
 水彩、や能名、実名、天乃月
 名、傍ら、あまの月の、れ、彩、夜、師
 古、こと、も、彩、月、と、あ、ら、う、ま、じ、り、か
 名、月、れ、う、う、ら、な、ら、う、あ、ま、の、月
 今、ま、ら、う、わ、た、の、ま、の、月、乃、の、名、代
 明、月、の、名、ま、は、ら、な、む、い、り、り、れ
 名、月、の、名、ま、は、ら、な、む、い、り、り、れ
 月、の、名、ま、は、ら、な、む、い、り、り、れ

夕霧 信 學 智 一知 麁 魚 同 同

あすれ雲の二つは月のむらり
名月といはれし山と新しき
事任の名もたれぬや国月

同 同

九月十三夜

実のあふらうらうらな花やさねの月
そよよめはさるわ月さるる心
ののちひむのやうい月と十三夜
月はいのれいさるるさるるい
羊豆や月と名もたれぬとく
あふらうらうら月れあふら

智 同 同 高敷 重頼 方孝

くしやうのあふらうらうら
うたのあやうらうら月乃私
あふらうら月乃うらうら
菊のうらうらや月れあふら
さねの月とさるわあふらの
あふらうらうら月や菊さ
あふらうらうら月れあ
下れ句のあふらうら
月ハ雅三書一乃いりて
あふらうらうらうら
琴乃私わかすうら月れあ

廣通 是雲 美 昌房 立立 立園 同 同 同

雁

とらり字同 かしら此を伴居
新く母かりのりて越後か
居のびたれ内おまてよらか
花とるる居わお葉たてし
く 礎
く 礎わよのびらとれよ衣
冥真

菌

松茸のいよしんていよしん

とらり字同 かしら此を伴居
新く母かりのりて越後か
居のびたれ内おまてよらか
花とるる居わお葉たてし
く 礎
く 礎わよのびらとれよ衣
冥真

紅葉

付み本紅葉

まてゆりの葉を錦よお葉うり
山河乃遊らるるはすうのみわ
ま秋やも後山後乃梅もみら
松一本かりのりてよらか
川看れ河あわよのびらとれよ衣
真徳 昌房 廣寧 彦立

文ハ何ノ知リオキク此深小袖
 同
 何ノ花香淡ク此後の菊衣
 同
 此と姉と菊衣ク知リや酒の糟
 同
 室陽の情妻やまこのうをり也
 同

新酒

新酒古酒つましく船とあきり
 重頼
 さうつこの新とくむと古酒新酒
 重曹
 冷酒ハまきく一人のんどのうをり
 壽躰

雜秋

川高れ所多わさそふあられ美
 知徳
 りまはくそいこちてく死花火うか
 長治
 秋すてハゆり染うや惚れ琴
 齋山
 ちりやう紙とやせんわくや紙箱を
 長女
 ぬれ多と松あそそつり所多これ
 久任
 多あわくぬあは紙時白紙漆事か
 立園
 茶茶壺れ内ハくろくや秋の文
 同
 秋らの心申文ハくろくを立園作
 同

茶只知

口きりれ茶や常盤茶のよみ録

立圃

木葉

荳塚や木葉はぬりたり水 掣
 時句くもわきまや山の木葉様 清平
 風多や木のしれぬりたり川 宗雅
 年しりりたり木葉はたききれ 親昌
 神木の落葉や今も梅のぬ 重寛
 杉蔭や木葉のぬれ人屋より 清宗
 空と葉といふより雲を推うが 廣重

極うみのまわもれ茶のしりり時ぬ 昌房

霜

とく霜のころころ鐘の音久しか 大田
 畧門とわいしるも霜れくくま 兼言
 わさつらゝ霜くくたうら枯燈くれ 文侍
 霜月やうく下にみる月れ霜 常辰
 花やうはあさうやほよ霜乃文 立圃
 霜吹しるそ冷や一番二番も 同
 夕霜い早れもくくわうくさ砂 同
 星乃情あやうくくやう霜の露 同

雪

何とくも雪かきし思ひあはれ
 雪生山や不生ふ滅の雪かきけり
 大佛とていりしもあわや雪生れ雪
 むらたれぬやけりし神道や雪解
 まうらぬ程いゆわや應れ雪乃雪
 大雪かきしそかりし里も雪
 生國の越前のもれ雪女
 いみじくはあつもわく雪女
 雪かきぬのわく雪乃雪かき

徳元
 後之
 親信
 智詮
 吉武
 業政
 元定
 盛之
 但秀

佛性成るるに終ぬ雪とんか
 雪の吹れ月白川東よれ
 花乃雪少りぬあつてや雪の花
 雪もかきく雪もあはれ雪かき
 打ち雪かき雪かきつて秋の
 あつての雪かき雪かき雪かき
 冬なる雪かき雪かき雪かき
 雪かき雪かき雪かき雪かき
 雪の日は雪かき雪かき雪かき
 雪かき雪かき雪かき雪かき
 雪かき雪かき雪かき雪かき

了閑
 俊壽
 信元
 弘次
 季貞
 久忠
 就武
 秋月
 元定
 十

新しうり黒し一わ雪雪のわ雪雪の
 山姥とわりう年一つう雪女
 雪花いみうと乃枝やまさう
 ためうくく雪や庭木状作の枝
 されうろたやけりわ雪こ
 雪れ日の雪わわめうすふ海うい物
 初雪乃ら金うわかうれと中下
 雪の目れ道乃とわりのわ足乃後
 入わいのののわらうてわじいのむ
 雪ううくよ孫雪ううう人う

三
 信
 齋
 清下
 同
 雪
 家房
 重因
 信徳

餅と何雪や氷と雪うのらん
 貧学れはわりわ雪乃花うら
 八中ういの安婆れ赤現わ雪佛
 雪れ目わいほくも園の雪目之目
 雪やむ向向不肯ううら山
 雪方の山一丁そまけさうわ雪ま雪
 町ううら系れ雪山わ海一れ雪
 わ一紙とわうらわのりう不盡の雪
 雪れつまてとらう雪うう風雪
 雪のううううううううううう
 雪のううううううううううう

好子
 昌房
 同
 立園
 同
 同
 同
 同
 同
 同
 同

おのつゝおねくゝ
夕すそのおをれらりり
ぬこれのどとて目ふるはら
川口ろくはるや勢の棲る川
しりそつゝ水や風れらるる
波のもどらりあさにとり来る

大友
意三
了悦
三圃
同
同

水鳥

あきれ羽や火籠れかゝ衣
さ波やもつらゆく流をさきうけ
河向はとそまらむまゝに水鴨か

徳元
三女
整之

鴨の葉らゝ波やみか赤し
入らぬれ鴨やうりえの波れ波
くそしたる河波しらりやな子鳥
ゆる流の教らうとらる子鳥うね
勢うらうす子鳥やうゆの中れ流
黒鴨のやしと流らうさ波ら勢
枯草れ中し小鳥葉れ水鴨うか
あきわらせかまらうすの波し
つゝいゝ波交り小鴨ととゝいゝ川

無言
嶺利
定親
三圃
三圃
同
同
同
同

水鳥

横山重

八

